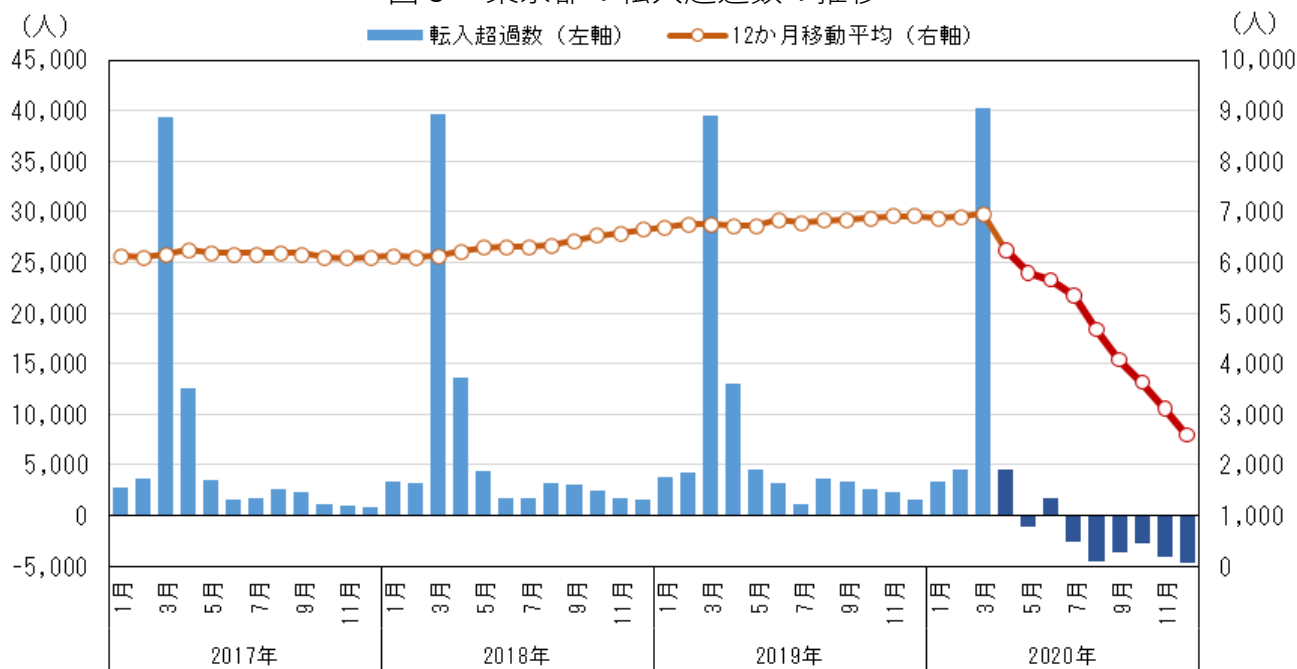


- ・東京都の転入超過数は、緊急事態宣言が発出された令和2（2020）年4月に大幅に減少し、5月には転出超過となった。
- ・6月に一旦、転入超過となったものの、新型コロナウイルス感染者数が増え始めた7月にふたたび転出超過となり、以降6カ月連続で転出超過となっている。（図3）

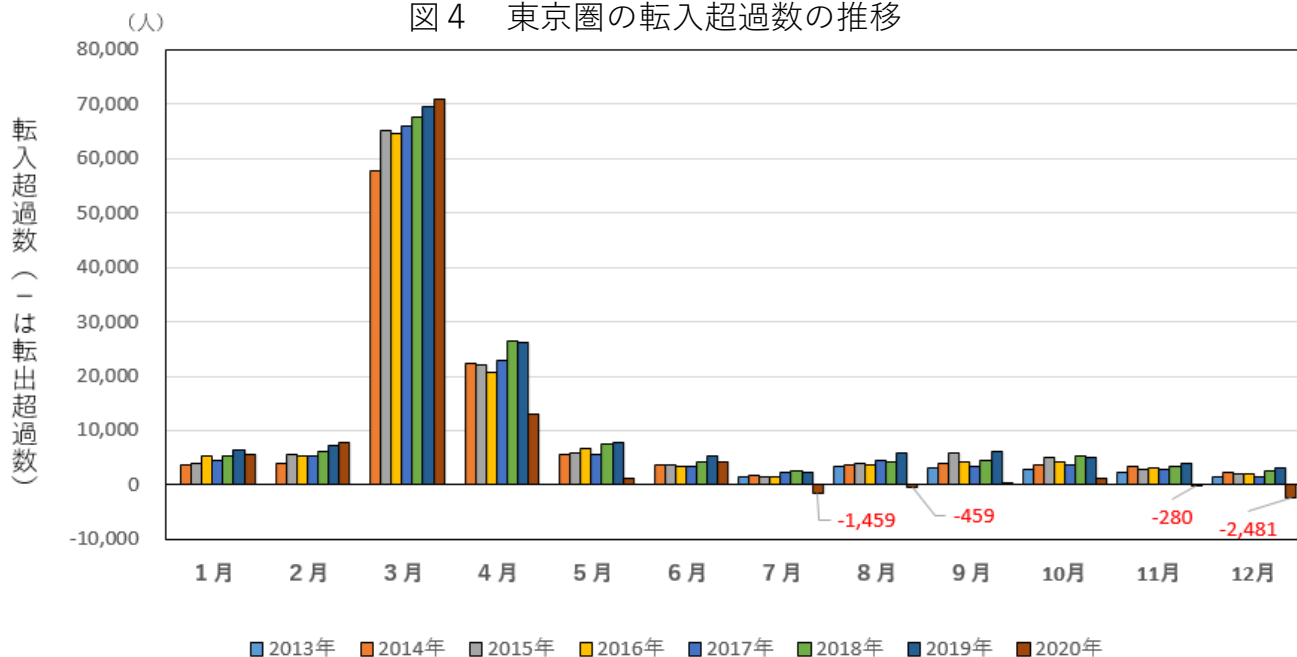
図3 東京都の転入超過数の推移



出典：総務省統計局

- ・東京圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）においても、東京都とほぼ同様の推移となっている。（図4）

図4 東京圏の転入超過数の推移



出典：総務省統計局

- ・地方圏での暮らしを検討する理由（東京圏）は、自分なりの生活スタイルを実現するが約9割となっている。
- ・次いで、希望する仕事に就きたい、自分と関係ある地域に暮らしたいが、それぞれ約3割となっている。
- ・移住先で期待するライフスタイルや実現したいことは多様化している。
- ・地方移住に関連して、地方公共団体に求める支援（地方公共団体の取組で印象に残っている取組）は、住宅に関する補助が最も多くなっている。
- ・地方圏でやりたい業種は、農業・林業、宿泊業、飲食サービス業の順となっている。
- ・東京圏出身者が地方圏でやりたい業種のトップは農業・林業、地方圏出身者が地方圏でやりたい業種のトップは情報通信業となっている。

移住等の増加に向けた広報戦略の立案・実施のための調査事業報告書
 （令和2年度：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局）
 〔東京圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）在住の20～59歳の男女〕

⑦地方圏での暮らしを検討する理由（複数回答）

- ・豊かな自然環境があるため (55%) ①
- ・生まれ育った地域で暮らしたいため (16%) ③
- ・東京圏での生活が合っていないと感じたため (11%) ①
- ・子育てする環境が整っていると感じたため (9%) ①
- ・自身や配偶者・パートナーの転勤のため (9%) ②
- ・地方圏の方が収支のバランスが良いため (9%) ②
- ・親等の介護のため (9%) ③
- ・人間関係が良好であると感じるため (8%) ①
- ・東京圏での災害が心配なため (7%) ①
- ・東京圏での仕事が合っていないと感じたため (5%) ②
- ・地方圏でやりたい仕事があるため (3%) ②
- ・自身または配偶者・パートナーの家業を継ぐため (2%) ③
- ・その他 (6%)



- 自分なりの生活スタイルを実現する (①合計) 90%
- 希望する仕事に就きたい (②合計) 26%
- 自分と関係ある地域に暮らしたい (③合計) 27%

⑧移住先で期待するライフスタイルや実現したいこと（複数回答）

- ・自分に合った生活スタイルを送ること (43%)
- ・スローライフを実現すること (39%)
- ・食べ物や水、空気がおいしい環境で生活すること (35%)
- ・健康的な生活を送ること (35%)
- ・やりたい仕事、自分に合った仕事をする (33%)

⑨地方移住に関連して、地方公共団体の取組で印象に残っている取組（複数回答）

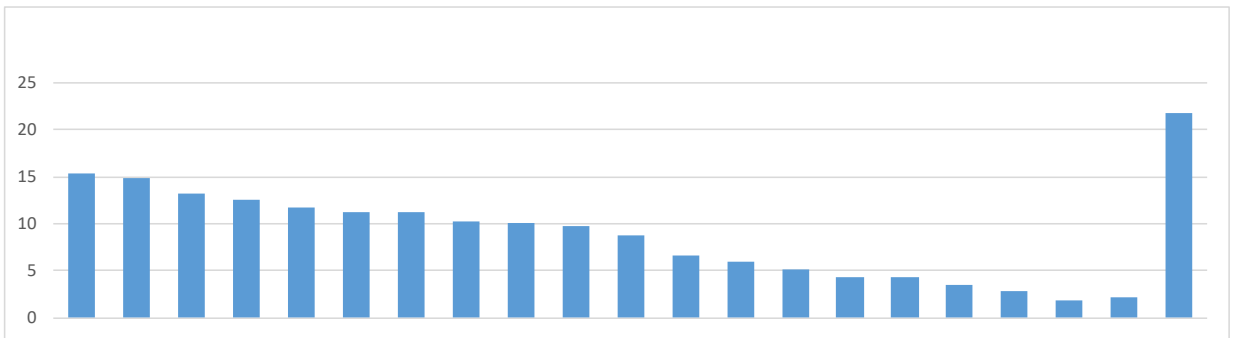
- ・住宅（家賃・リフォーム等）に関する補助 (66%)
- ・引っ越し費用の補助 (46%)
- ・田舎暮らし体験 (46%)
- ・空き家体験 (45%)
- ・地方移住者交流支援 (38%)

㊤東京圏在住者が地方圏でやりたい業種（複数回答）（図5）

- ・農業・林業 (15%)
- ・宿泊業、飲食サービス業 (15%)
- ・サービス業（他に分類のないもの） (13%)
- ・医療、福祉 (13%)
- ・情報通信業 (12%)

図5 東京圏在住者が地方圏でやりたい業種（複数回答）

(%)

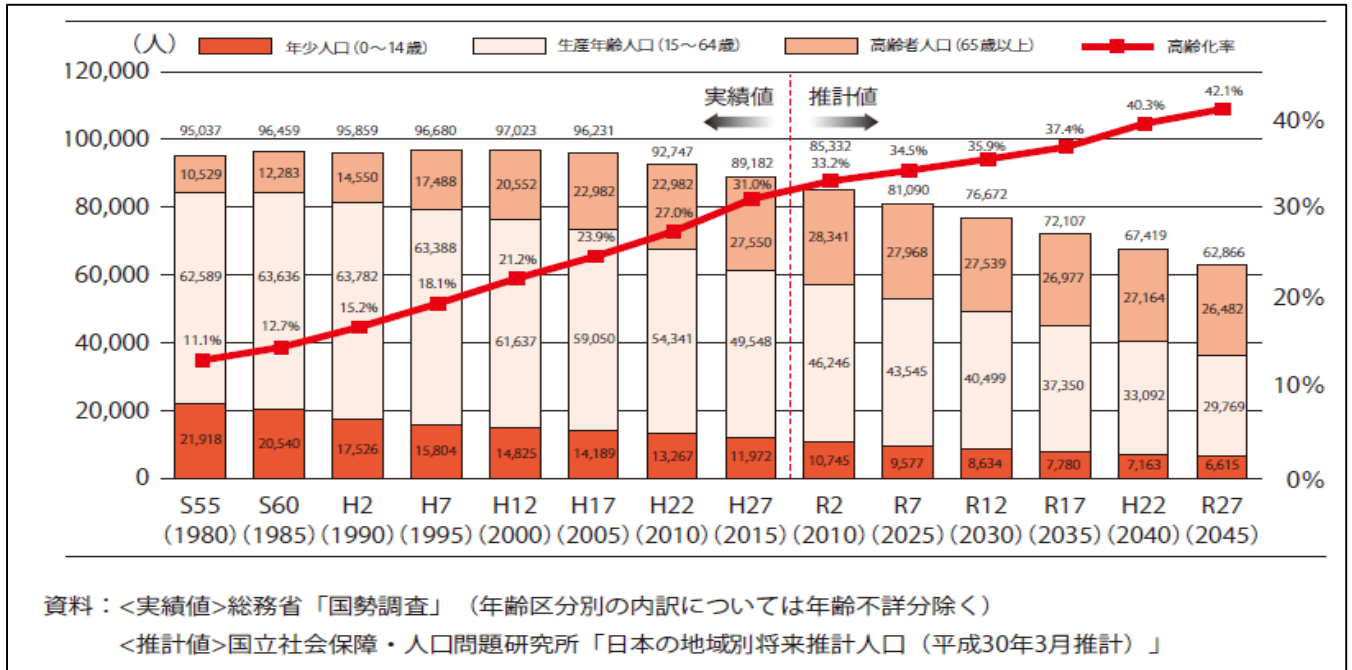


業種	農業・林業	宿泊業、飲食サービス業	サービス業（他に分類されないもの）	医療、福祉	情報通信業	教育、学習支援業	生活関連サービス業、娯楽業	製造業	公務員	学術研究、専門・技術サービス業	卸売業・小売業	複合サービス業	運輸業・郵便業	建設業	漁業	電気・ガス・熱供給・水道業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	鉱業・採石業・砂利採取業	その他 具体的に	特にない
TOTAL	15.4	14.9	13.3	12.5	11.7	11.3	11.2	10.3	10.1	9.8	8.7	6.7	5.9	5.2	4.4	4.4	3.5	2.9	1.9	2.2	21.8
地方圏出身	13.1	13.2	13.8	12.2	16.2	11.1	9.3	11.1	9.4	13.4	6.2	5.6	3.1	3.3	4.5	4.7	3.8	2.4	1.8	1.8	23.8
東京圏出身	16.6	15.7	13.1	12.7	9.5	11.4	12.1	9.9	10.5	8.0	9.9	7.3	7.4	6.1	4.4	4.2	3.4	3.1	1.9	2.4	20.9

(2) 本市の現状

- 本市の人口は、平成12(2000)年の97,023人をピークに減少を続けている。(図6)

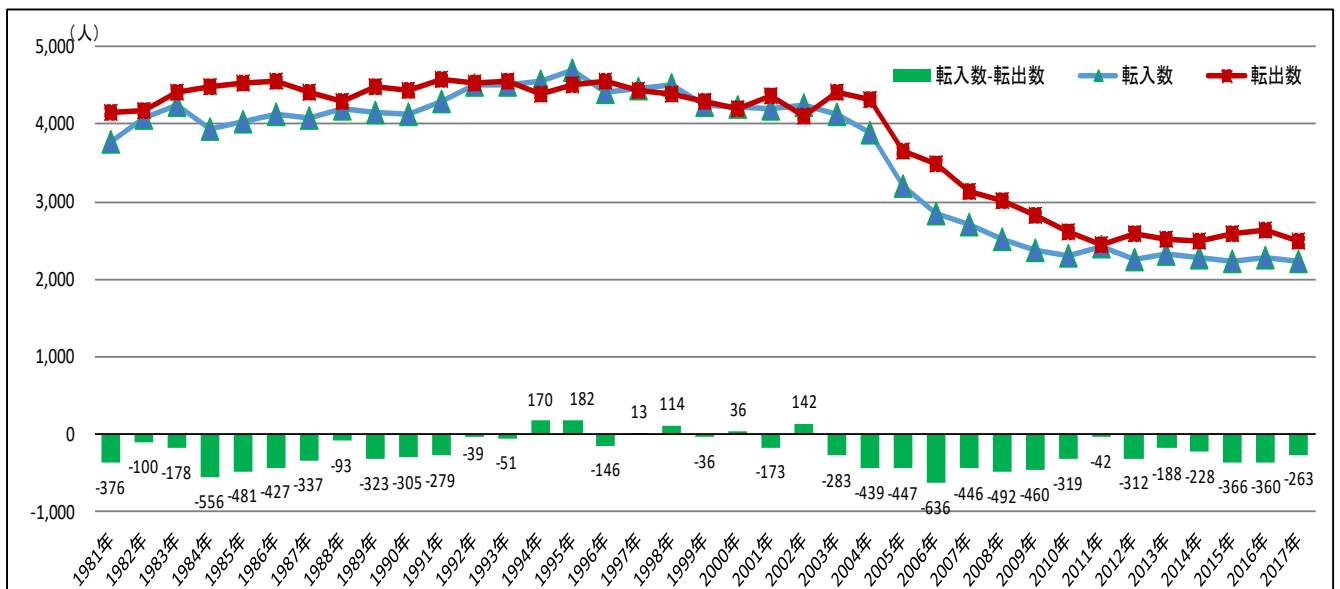
図6 高山市の人口推移と将来推計



出典：高山市第八次総合計画

- 人口移動は、平成15(2003)年以降、転出超過が続いている。
- 平成21(2009)年以降の総転入者数は、2,100人~2,400人で、ほぼ横ばいで推移している。(図7)

図7 高山市における転入者・転出者数の推移のグラフ



出典：「岐阜県の人口減少の現状 2020年7月更新」（岐阜県）

- ・移住者数は、平成27(2015)年度以降350人程で推移している。(図8)
- ・平成31(2019)年度の移住者361人の内訳は、Uターン213人(59%)、Iターン86人(24%)、Jターン62人(17%)である。
- ・年代別移住者数は、20代~30代に集中している。(図9)
- ・移住前の居住地は、県内と東海地域がそれぞれ約3割、次いで関東地域、関西地域の順となっている。(図10)
- ・移住後の居住地は、高山地域が約8割を占めている。(図11)
- ・移住後の職業は、医療、旅館・飲食業、家具・木工が多くなっている。(図12)

図8 高山市における移住者数の推移

(単位：人)

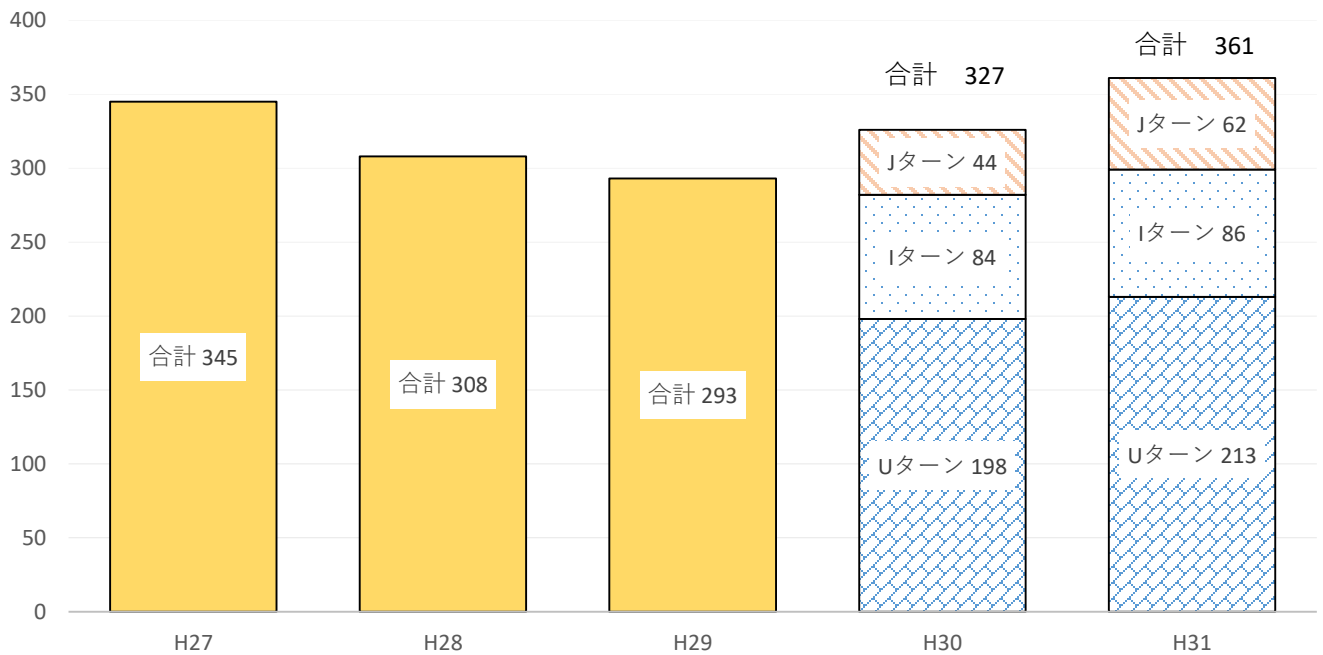


図9 高山市の年代別移住者数

(単位：人)

区分	H27		H28		H29		H30		H31		H27~31累計	
移住者数	345		308		293		327		361		1,634	
20代以下	229	66.4%	221	71.8%	217	74.1%	235	71.9%	245	67.9%	1,147	70.2%
30代	98	28.4%	73	23.7%	57	19.5%	69	21.1%	98	27.1%	395	24.2%
40代	6	1.7%	10	3.2%	8	2.7%	6	1.8%	10	2.8%	40	2.4%
50代	2	0.6%	2	0.6%	7	2.4%	8	2.4%	6	1.7%	25	1.5%
60代	8	2.3%	1	0.3%	3	1.0%	2	0.6%	2	0.6%	16	1.0%
70代以上	2	0.6%	1	0.3%	1	0.3%	4	1.2%	0	0.0%	8	0.5%
不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.9%	0	0.0%	3	0.2%

図10 移住者の移住前の居住地域

(単位：人)

区分	H27		H28		H29		H30		H31		H27～31累計	
県内	97	28.1%	66	21.4%	93	31.7%	89	27.2%	107	29.6%	452	27.7%
東海	118	34.2%	117	38.0%	84	28.7%	109	33.3%	118	32.7%	546	33.4%
関東	45	13.0%	34	11.0%	37	12.6%	56	17.1%	52	14.4%	224	13.7%
関西	36	10.4%	32	10.4%	19	6.5%	24	7.3%	24	6.6%	135	8.3%
その他	49	14.2%	59	19.2%	60	20.5%	49	15.0%	60	16.6%	277	17.0%
合計	345	100.0%	308	100.0%	293	100.0%	327	100.0%	361	100.0%	1,634	100.0%

図11 移住者の移住後の居住地域

(単位：人)

区分	H27		H28		H29		H30		H31		H27～31累計	
高山地域	263	76.2%	236	76.6%	222	75.8%	257	78.8%	286	79.2%	1,264	77.4%
支所地域	82	23.8%	72	23.4%	71	24.2%	69	21.2%	75	20.8%	369	22.6%
丹生川	10	12.2%	21	29.2%	17	23.9%	11	15.9%	18	24.0%	77	20.9%
清見	9	11.0%	9	12.5%	11	15.5%	11	15.9%	7	9.3%	47	12.7%
荘川	4	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.0%	7	1.9%
一之宮	7	8.5%	6	8.3%	5	7.0%	7	10.1%	10	13.3%	35	9.5%
久々野	11	13.4%	5	6.9%	9	12.7%	13	18.8%	14	18.7%	52	14.1%
朝日	4	4.9%	2	2.8%	5	7.0%	5	7.2%	5	6.7%	21	5.7%
高根	0	0.0%	4	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.1%
国府	30	36.6%	23	31.9%	17	23.9%	17	24.6%	17	22.7%	104	28.2%
上宝・ 奥飛騨温泉郷	7	8.5%	2	2.8%	7	9.9%	5	7.2%	1	1.3%	22	6.0%
合計	345	100%	308	100%	293	100%	326	100%	361	100%	1633	100%

図12 移住後の職業

(単位：人)

区分	H27		H28		H29		H30		H31		H27～31累計	
医療	45	15.1%	48	18.0%	48	18.8%	46	15.9%	76	25.9%	263	18.7%
家具・木工	24	8.1%	30	11.2%	14	5.5%	12	4.2%	26	8.9%	106	7.6%
旅館・飲食業	33	11.1%	19	7.1%	18	7.0%	30	10.4%	47	16.0%	147	10.5%
金融機関	20	6.7%	9	3.4%	14	5.5%	18	6.2%	15	5.1%	76	5.4%
農業	7	2.3%	15	5.6%	11	4.3%	10	3.5%	23	7.8%	66	4.7%
林業	0	0.0%	2	0.7%	3	1.2%	1	0.3%	7	2.4%	13	0.9%
その他	158	53.0%	125	46.8%	120	46.9%	119	41.2%	93	31.7%	615	43.8%
不明	11	3.7%	19	7.1%	28	10.9%	53	18.3%	6	2.0%	117	8.3%
合計	298	100.0%	267	100.0%	256	100.0%	289	100.0%	293	100.0%	1,403	100.0%

- ・ 移住相談件数は、近年、増加していたが平成31年度(250件)は前年度(482件)から半減している。(図13)
- ・ 移住相談者の居住地は、県内を含む東海地域が約3割、次いで関東地域、関西地域の順となっている。(図14)
- ・ 相談方法は、電話が約4割となっている。(図15)
- ・ 令和2年4月から12月までの間に移住の相談があった人のうち、約4割が移住している。(図16)
- ・ 相談者の年齢は、30代が約4割、次いで20代となっている。
- ・ 相談者の約7割がIターン者となっている。

図13 平成27(2015)～令和2(2020)年12月までの延べ相談件数の推移

(単位：人)

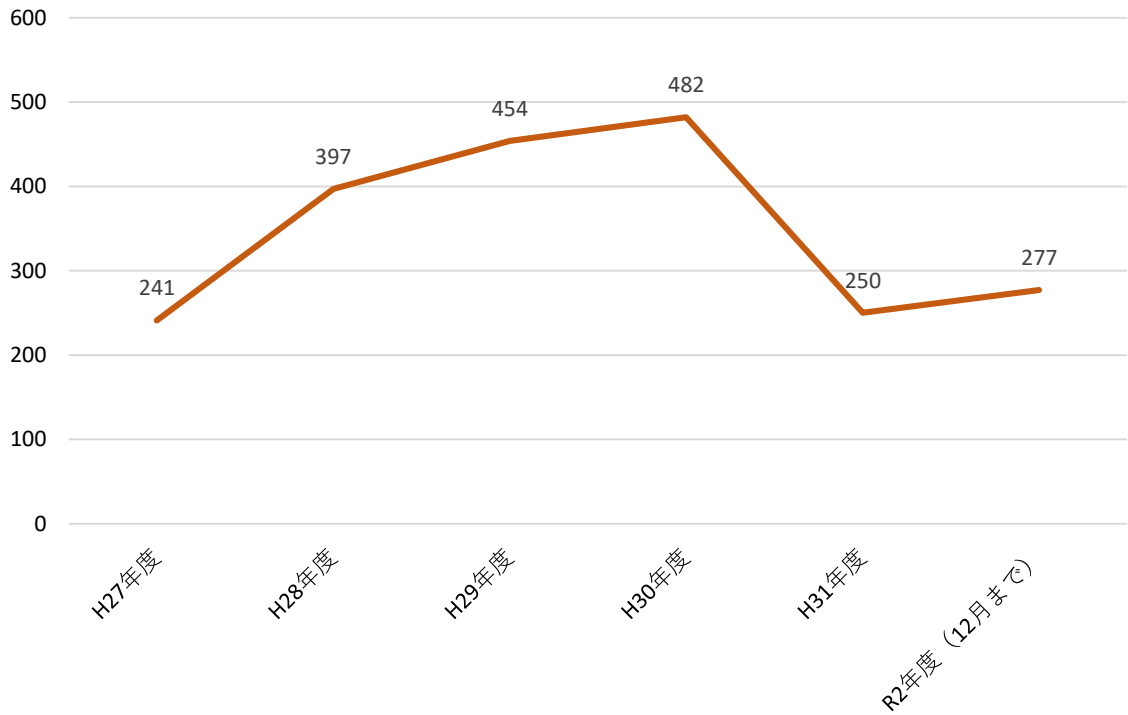


図14 移住相談者の居住地

(単位：人)

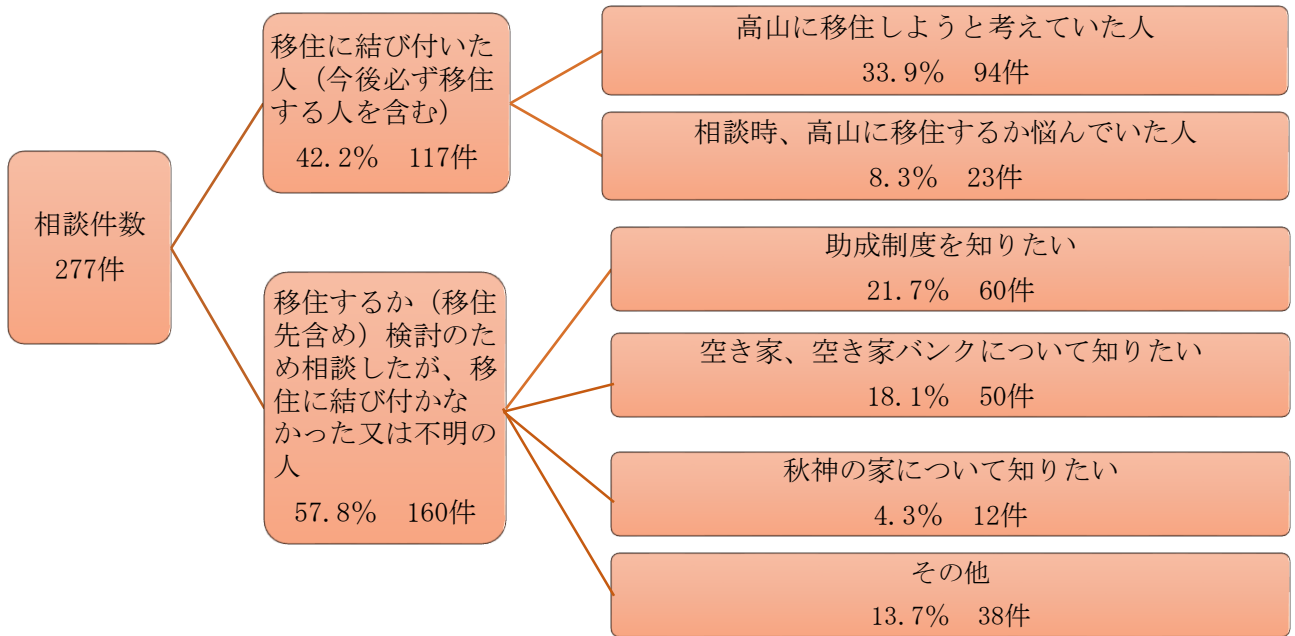
	H27		H28		H29		H30		H31		H27～31累計	
関東	76	31.5%	76	19.1%	65	14.3%	69	14.3%	33	15.8%	319	17.9%
東海(県内除く)	46	19.1%	77	19.4%	43	9.5%	51	10.6%	22	10.5%	239	13.4%
県内	32	13.3%	58	14.6%	86	18.9%	62	12.9%	39	18.7%	277	15.5%
関西	53	22.0%	30	7.6%	31	6.8%	23	4.8%	19	9.1%	156	8.7%
その他	11	4.6%	0	0.0%	24	5.3%	72	14.9%	42	20.1%	149	8.4%
不明	23	9.5%	156	39.3%	205	45.2%	205	42.5%	54	25.8%	643	36.1%
合計	241	100.0%	397	100.0%	454	100.0%	482	100.0%	209	100.0%	1783	100.0%

図15 移住相談者の相談方法

(単位：人)

	H27		H28		H29		H30		H31		H27～31累計	
電話	67	27.8%	147	37.0%	202	44.5%	174	36.1%	77	36.8%	667	37.4%
メール	18	7.5%	69	17.4%	55	12.1%	42	8.7%	22	10.5%	206	11.6%
FAX	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
来庁	58	24.1%	106	26.7%	119	26.2%	108	22.4%	83	39.7%	474	26.6%
セミナー・相談会	98	40.7%	75	18.9%	74	16.3%	151	31.3%	24	11.5%	422	23.7%
その他（郵便等）	0	0.0%	0	0.0%	4	0.9%	7	1.5%	3	1.4%	14	0.8%
合計	241	100.0%	397	100.0%	454	100.0%	482	100.0%	209	100.0%	1783	100.0%

図16 移住に関する相談件数の内訳
(令和2(2020)年4月～12月)



相談者の属性分析

(平成31年4月～令和2年12月、移住相談カード55件)

1. 年代

- ・20代以上 (15%)
- ・30代 (42%)
- ・40代 (13%)
- ・50代 (13%)
- ・60代以上 (13%)

2. 移住形態

- ・Iターン (73%)
- ・Uターン (22%)

3. 家族構成

- ・独身 (47%)
- ・夫婦 (27%)
- ・自身と子供 (18%)

4. 移住検討理由

- ・自然豊か (29%)
- ・仕事 (27%)
- ・家庭の事情 (15%)